

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立三日月小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標「ともに なかよく かしく たくましく～元気！笑顔！三日月サイコー！～」を、教師も児童もたえず意識して、それぞれの教育活動を行うことができた。</li> <li>・いじめについては、「心のアンケート」や「教育相談週間」等を有効に活用し積極的に認知を行った結果、前年度、いじめの件数は多かったが、小さな芽を摘んだことで大きな事案に発展することはなかった。今年度も、いじめの早期発見・早期対応に努めていきたい。</li> <li>・学力向上については、校内研究をとおして全職員が同じ意識をもち取り組むことができた。しかし、県調査からは課題も見えた。今年度は、前年度の課題をもとに、さらなる授業改善を行っていく。</li> <li>・新校時表の導入や教科担任制、交換授業を起爆剤として、教職員の働き方改革と、質の高い教育活動を推進する。</li> </ul>		
2 学校教育目標	<p>ともに なかよく かしく たくましく</p> <p>～元気！笑顔！三日月サイコー！【ともに誇れる学校】～</p>		
3 本年度の重点目標	<p>① 安心・安全な教育に取り組むための環境づくりに取り組む</p> <p>② 確かな学力、豊かな心を育むための指導法・指導体制の充実を図る</p> <p>③ 特別支援教育の視点をベースにした個への支援と集団支援を融合させる</p> <p>④ 新校時表導入による質の高い教育活動と教職員の業務改善を推進する</p> <p>⑤ 学校教育目標、学年・学級目標の一貫性を形成させ、学年グループによる協働体制を推進する</p>		

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○授業についてのアンケートで、「わかる」が80%以上	・三日月スタンダードに基づく、全学年で共通した基本的学習習慣と家庭学習を推進する。 ・教科担任制(英語・理科)、学級間の交換授業等を取り入れ、教師の専門性を生かした指導を推進する。 ・学校生活の中で、根拠をもとに話し合いを積極的に設定する。 ・互いの授業を自由に見に行くことができる校内参観ウィークを設定し、授業力の向上を図る。	B	・校内研究で、根拠をもとに話し合うことを研究している。講師を招聘して講話を聞いたり、それをもとに授業をしたりした。今後、研究授業を行い、研究を深めていく。 ・児童アンケート「勉強が分かりやすい」について肯定的な回答をした児童89% ・6年生における全国学力・学習状況調査の結果は、国語、算数とも全国や県とほぼ同等、または少し下回った。全職員で分析、課題を共有し、今後、取り組んでいく。	A	・校内研究で、チャレンジ学級グループと各学年で研究授業を行った。児童が正確に理解する力を育成する研究を深めることができた。 ・児童アンケートの「勉強は分かりやすいですか。」という項目で、肯定的な回答をした児童が92.6%だった。 ・6年生の全国調査について、全職員で職員研修を行った。分析結果を授業の改善等に生かし、学力の向上を図った。家庭学習の具体的な取り組み・お願については、保護者にプリントを配布した。児童が学習に対する意欲を高め、学習方法を工夫することによって、更に学力の定着をめざしていきたい。	A	・授業参観をした時、どの学級も落ち着いていて、授業態度もよかった。先生方は、全体指導と個別指導を分けてきちんと指導をされていた。子どもの「分かりやすい」につながっていると感じた。 ・アンケートの結果で「分かりやすい」について肯定的な結果が児童及び保護者で90%を上回っており、よく取り組まれていると思う。 ・全国学力・学習状況調査で全国平均を少々下回っていたことは、大した問題ではない。個々の子どもが満足感をもつようにすればよい。 ・今後、家庭学習の充実にも期待したい。	学力向上対策コーディネーター 研究主任
	○電子黒板や一人1台端末の効果的な活用	○電子黒板やタブレット端末の効果的な活用方法等について職員で情報共有を行う場を年間12回以上設ける。	・教師アンケートでは、「授業では積極的かつ効果的にタブレットを活用していますか。」の質問に対し、「よくあてはまる」が大半であった。肯定的に回答した職員は73%であった。前年度と同じ時期は66%という結果であったことから、タブレット端末の活用頻度が高くなってきていると考えられる。今後もタブレット端末の活用方法について積極的に情報提供を行っていききたい。	B	・電子黒板やタブレット端末の効果的な活用方法について情報共有を行う場を年間12回以上設けた。教師アンケートの中間結果と最終結果を比較してみると、「積極的かつ効果的なタブレットを活用」の設問に対して、肯定的に回答した職員は、73%から76%へと上昇している。今後も情報発信を行い有用なデータを共有して、職員のICT利活用能力の向上を図っていききたい。	B	・アンケートの結果では、前年度より肯定的な回答が多くなっていたが、中間評価からはあまり伸びていなかった。「効果的に」を先生方が意識してのことだと思いが、今後も有効に活用して学習に生かしてほしい。	B		情報教育担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケートで、思いやりの項目の肯定的評価が90%以上	・「進んであいさつで心ひらき」「はきものそろえて心そろえ」「むんそうじで心みがき」を年間の重点項目として取り組む。	A	・児童アンケート、「相手のことを考えた、思いやりのある言葉づかいや行動」の質問に対し、肯定的に回答した児童が92%だった。学級、学年集会、全校放送などで「あいさつ」「はきものそろえ」「無言掃除」を進んで取り組んでいる児童、思いやりのある行動をしている児童を褒めている。引き続き、全職員で取り組む。	A	・児童アンケート、「相手のことを考えた、思いやりのある言葉づかいや行動」に関して、肯定的に回答した児童が94%で中間評価の92%を上回る結果となった。「あいさつ」「はきものそろえ」「無言掃除」の思いやりのある行動をしている児童を紹介する取組が児童のやる気につながり、良い行動が多くなる児童に広がった。	A	・自ら考えて行動することが大事である。小学校でも問題等があった場合は丁寧に聞き取りをされて、子どもに考えさせていると聞いている。こども園でもことごと話し合うようにしている。それが、小学校につながっているのではないかと。 ・自分の子どもも「ほめられる」ことで伸びている。引き続き、たくさんほめていただくことを期待している。	道徳教育推進教師 道徳担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○心のアンケートで「学校が楽しい」と回答する児童を90%以上	・Q-Uの結果を踏まえて、学級や個人の現状把握と課題の分析に努め状況に応じた手立てをとる。 ・事案に対する「即報告即対応」	B	・毎月心のアンケートでは、「楽しい」と肯定的回答がどの月も95%以上であった。6月に行ったいじめ調査については、必要に応じて児童から聞き取りを行う等、事実確認しながら、担任や学年チームを中心に対応に当たった。 ・1学期のQ-Uの結果については、夏期休業中に学年ごとに研修会を実施し、現状把握と今後の手立てを話し合った。	B	・毎月心のアンケートは、2学期も「楽しい」と肯定的回答が95%前後であった。保護者のアンケートにおいても、肯定的回答が95%であった。2学期のQ-Uの結果については、12月分析を行い、3学期への手立てを考えた。 ・いじめ事案については、担任だけでなく、学年、管理職を交えてチームで対応してきた。	B	・いじめの件数が前年度より減っている。これは人権教育が十分になされているからであろう。児童センターでも、けんかをする子どもが減った。「たいたたらダメ」というような指導が行き届いている。一人一人の心が満足しないと「豊かな心」にならない。子どもの満足度が高いといじめが減る。	生徒指導担当 教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○学校教育目標が言える児童80% ●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・学校教育目標を、教師も児童もたえず意識して、それぞれの教育活動を行う。 ・善行児童に対しては、きちんと褒めることを全職員で取り組む。 ・総合的な学習の授業でキャリア教育を取り入れた学習に取り組む。(4、5、6年)	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は89%であり、教師に対する信頼感や期待感が高い。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は88%である。6年生のわたしの夢(佐賀新聞に掲載)に取り組んだ。4、5年生も2学期以降、総合学習で仕事について調べたり、将来について考える授業を行ったりにしている。	B	・1学期、月の超過勤務時間は、前年度と比較すると一人あたり約5時間減っている。今年度、新校時表を導入したことで、児童の下校時間が早くなり、先生方が教材研究の時間を十分に取れることになったこと、児童の様子を学年で共有することで対応が迅速にでき大きな問題に発展しなかったこと等を要因と考える。ただ、定時退勤日はあまり守れていない。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は91%であった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は86%(4～6年)である。5年生は93%で、総合学習で仕事について学習をしたことで、自分の将来の夢や目標がより明確になったと考えられる。	B	・先生が子どもを認めてくれることが大事であると思う。 ・児童センターでは、小学生にボランティアを募ったところ、8名の子どもが応募し、活動をした。ボランティア委員会でも来ていただいている。これもキャリア教育の一つとなるのではないかと。
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	○生活衛生チェック表の取り組みができている児童70%以上 ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・育友会と連携し、ネットルールの啓発を行う。 ・新給食センター移行に向けて保護者に情報提供を行い、安全・安心な給食の提供に努める。 ・感染症、事故、自然災害について、情報提供や訓練等を計画的に行う。	A	・問題行動については、全体として減少傾向にある。交通事故は8月までは起こっていない。「三日月ルール」として、ネットルールの啓発を今年度、育友会とともに進めていきたい。 ・生活衛生チェック表の取り組みができている児童はおよそ85%であった。今後も指導を継続していく必要がある。	A	・新校時表の導入により放課後の時間が増えたことで、地域の児童の問題行動が多少見られた。その都度、指導を行い解決に向かうことができた。ネットルール作りを育友会と話し合う機会を持てなかったため、来年度の課題とした。 ・新給食センター移行に向けてアレルギー児童の保護者全員と面談を行い、必要に応じて電話での相談にも応えてきた。これからは、保護者の声に耳を傾けていきたい。 ・毎週月曜日に実施している生活衛生チェックは、放送や担任の声かけによる指導の継続により、9割以上の児童ができていた。	A	・きまりを守る態度が表れてきた。児童センターに自転車で来る子どもも、ヘルメットをかぶってくるようになってきた。 ・新給食センターになったが、アレルギー食にもきちんと対応していただいている。 ・高学年でスマホを所持する子ども達が多くなっている。ネットルールも含め、対策や取組を強化して、子ども達にも積極的に発信してほしい。	生徒指導担当 保健指導担当 食育指導担当
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。	・教職員の毎月の勤務時間を把握する。定時退勤日を実施する。 ・新校時表の導入、成績2期制より、課後の時間を確保し、教職員の心身の安定に努める。	B	・1学期、月の超過勤務時間は、前年度と比較すると一人あたり約5時間減っている。今年度、新校時表を導入したことで、児童の下校時間が早くなり、先生方が教材研究の時間を十分に取れることになったこと、児童の様子を学年で共有することで対応が迅速にでき大きな問題に発展しなかったこと等を要因と考える。ただ、定時退勤日はあまり守れていない。	A	・超過勤務時間は45時間未満が、前年度より30%(約14名)増えた。新校時表の導入の効果が大きいと考えられる。 ・成績2期制は、教師、保護者ともに根付いた。行事の精選、会議の精選については、引き続き検討を行い、先生方が心身ともに健康で教育活動に当たることができるよう環境を整えたい。	A	・校時表の見直し等、よく工夫されている。こども園でも働き方改革を進めているが、なかなか難しい。 ・先生方が記述されているように、「先生方が心身ともに健康で教育活動に当たる」ことが一番大事だと思う。	教頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育	○個別に支援が必要な児童に対する支援方法の検討、実施、評価	○個に応じた支援を心がけた教員が90%以上	・全職員で対象児童の情報を整理、共有し、支援方法の検討を行う。 ・個別の支援を基盤とした通常学級での支援方法を校内で研修し、共通実践化を図る。 ・児童の将来の自立に向けて、保護者や関係機関と連携し、より良い進路支援を行う。	A	・対象児童について、実態および現在行っている支援について学年間で情報共有した。 ・校内研修において、応用行動分析の考え方を基にした行動への対応についての研修会を行った。 ・中学校進学へ向けて、三日月中学校の支援学級および通常学級の見学会を行った。(児童・保護者ともに) ・教師アンケート「個に応じた支援を心掛けることができた教職員」で肯定的な回答90%。	A	・教師アンケート「個に応じた支援」に関しては、98%の教職員が「支援できている」と回答した。 ・必要に応じて支援委員会を開催し支援の在り方を検討し、実施することができた。また、担任と支援員が支援の在り方を打ち合わせる場を学期に1度設け、話し合うことができた。 ・必要に応じて、コーディネーターと保護者との面談を行い、児童の支援について話し合うことができた。	A	・11月の三日月デーのバザー(チャレンジショップ)の催しがよかった。保護者もたくさん来られた。休み時間をうまく活用されており、このよつとした時間設定がよいと思った。 ・自分の子どももいるクラス(特別支援学級)では、できたシールを貼る等、細やかな配慮、交流学級担任との連携が取れている。他の特別支援学級でもされていると思うが、ぜひどのクラスでもそうすることを望む。	特別支援教育コーディネーター

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標「ともに なかよく かしく たくましく～元気！笑顔！三日月サイコー！～」を、教師も児童もたえず意識して、それぞれの教育活動を行うことができた。その成果が、それぞれのアンケートの結果に表れていた。</li> <li>・いじめについては、今年度も「心のアンケート」や「教育相談週間」等を有効に活用し、積極的に認知を行ったが、それでもいじめの件数は前年度より減った。小さな芽を摘んだことで大きな事案に発展することもなかった。次年度も、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、「心の教育」も充実させたい。</li> <li>・学力向上については、校内研究をとおして全職員が同じ意識をもち取り組むことができた。しかし、全国学習状況調査の結果からは、家庭での学習時間の課題も見えた。次年度は、家庭学習も含め、さらなる学力向上を目指す。</li> <li>・教職員の働き方改革の推進については、今年度、校時表の見直しを行ったことで、超過勤務時間が前年度より大きく減った。これまで効果のあった成績2期制、交換授業、会議回数や時間の削減等の取組は次年度も続けるとともに、授業時数の再検討等、次年度に向けて検討を重ねているところである。</li> </ul>		
------------------------------	---	--	--